

北杜立長坂小学校自己評価書

校長 堀内正基

記述者 教頭 向井浩輔

＜本年度の学校教育目標＞

『自ら学び 進んで鍛え 共に伸びる 長小の子』

やさしい子 かしこい子 たくましい子 力を合わせる子

＜めざす子ども像＞

- 学び合い、考えを深める子 (確かな学力の育成)
- 認め合い、協力する子 (豊かな心の育成)
- めあてをもって挑戦する子 (健やかな体の育成)
- よさを認め、力を伸ばす子 (特別支援教育の充実)

＜本年度の経営方針＞

- (1) 地域や学校、児童の実態に即した、特色ある学校づくりに努める。
- (2) 各教科等及び学年相互の関連と調和を図り、学習指導要領の趣旨を踏まえ、指導計画の改善と充実に努める。
- (3) 学校の教育活動全体を通して、体系的・系統的なキャリア教育の充実に努める。
- (4) 社会の変化に対応し、新たな価値を創造していく観点から情報教育・ICT活用、環境教育等を、また、伝統や文化に関する教育の充実の観点から郷土学習を学校教育活動のなかに適切に位置づけ、その充実に努める。
- (5) 障害のある児童に対して、家庭や関係機関と連携し、障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行えるよう、特別支援教育の推進に努める。

I 全体評価

昨年度と同様に、自己評価を「学校教育目標・学校経営について」、「学校運営について」、「学習指導について」、「生徒指導について」、「地域との連携について」、「学校の特色に関して」の6観点からアンケートを基に行った(アンケートは、A：そう思う、B：ややそう思う、C：ややそう思わない、D：そう思わない、の4段階評価)。評価項目数・項目内容については昨年度と同様である。ただし、昨年度は前期後期の学校評価を行ったが、前期は新年度体制が落ち着いた頃の実施であり後期は評価結果を生かす期間が短かく、十分に学校運営についての把握、結果の反映が出来ないという理由から、今年度は運動会終了後に評価を行った。

教職員のアンケート結果を見ると、全47項目中、42の項目で90%(A+B)以上の肯定率を示している。児童のアンケート結果を見ても、全24項目中17項目において90%以上の肯定率、保護者についても全19項目中16項目について90%以上の肯定率を示している。

教職員の入れ替えや児童も1学年ずつ進級していることを考えると、昨年度の評価結果と単純に比較することは出来ないが、B評価が減りA評価が増えるなど、数値をみる限りは、統合3年目を迎え、年々安定した学校運営が進められてきていることが伺える。以下、職員の評価を基に6つの観点から具体的に考察していく。

II 各項目ごとの評価結果(達成状況・改善策)

1 「学校教育目標・学校経営について」	
達成状況	全ての項目で、A（そう思う）またはB（ややそう思う）が90%以上の肯定的評価が得られている。ただし、各項目は内容も広く、具体的に何についてどのように判断したかは回答者に任せられるため、個人が、以下5つの観点に沿って行った評価の総合的評価と考えることもできる。全体評価にもあるように、児童・保護者のアンケート結果も踏まえ、「学校教育目標・学校経営について」は、充実したものになっていると考えられる。
2 「学校運営について」	
達成状況	8項目の内、5項目で、A（そう思う）またはB（ややそう思う）が90%以上の肯定的評価が得られている。残りの3項目についても80%以上の肯定率であることから、円滑に「学校運営」が進められていると考える。個々に見てみると、「危機管理マニュアルを理解している」と「職員会議に積極的に関わっている」と「校内研究に主体的に関わっている」の肯定率が80%台であり、昨年度と同様の結果となっている。
改善策	<p>危機管理については、地震、火災、不審者などへの対策が主な対象であったが、1学期末に集団感染性胃腸炎が発生し、学年・学級閉鎖を余儀なくされたことから、改めて多種多様な危機に対応する取組や未然防止の重要性について理解した。地震、火災、不審者などへの対策については、基本の対応は理解されている。確かなものにするために、告知無しの訓練を重ねていきたい。また、年度末の教育課程編成時に、防災・安全教育の位置づけを見直し、学習の場に確実につなげていきたい。集団感染性胃腸炎への対応はすでに浸透している。</p> <p>職員会議については、大人数の中で、時間短縮などの工夫もしていることから、話し合う時間は限られてくるので仕方ない面もある。決定したことに対してどう取り組んでいるかという判断基準が必要である。</p> <p>校内研究の関わりについては、公開授業・研究会への準備に向けて費やす時間が多く、実際に関わる職員とそうでない職員との関わり方の違いと考える。意識の違いにならないようにしたい。</p>
3 「学習指導について」	
達成状況	全ての項目で、A（そう思う）またはB（ややそう思う）が90%以上の肯定的評価が得られている。このことから「学習指導について」は、ほぼ充実していると考えられる。単純に昨年度と比較できないが、B評価からA評価に変わっているものが増え、高い数字となっている。担任以外は答えられない項目も少なからずある。
改善策	校内研究を進めていく中で、授業改善が進んでいると思われる。事実、学力調査などの結果も良好である。また、職員室でも学年の授業反省が個々に行われており、職員の意識も高い。引き続き、校内研究で進めている改善プランに基づく授業をより充実させていきたい。
4 生徒指導について」	
達成状況	8項目の内、6項目で、A（そう思う）またはB（ややそう思う）が90%以上の肯定的評価が得られている。一概に低いとは言えないが、昨年度と同様に、「キャリア教育を児童の実態にに応じて行っている」、「学校は職員間で生徒指導上の課題を共有した対応をしている」については肯定的評価が80%台である。
改善策	実際には教育課程の中にキャリア教育が位置づけられていて、学習も行われているが、キャリア

善策	<p>ア教育を実践しているという意識が薄いことが数字として表れているのではないかと考える。キャリア教育の目標・目的が理解されれば、学習とのつながりも明確になると考える。生徒指導については、きめの細かい連絡・報告・相談が必ずしも出来ているとは言えない。全体会議により未然防止に努め、起きたことについては具体的な対応策を話し合うケース会議を行っていく必要がある。</p>
<p>5「地域との連携について」</p>	
達成状況	<p>9項目全てで90%以上の肯定的評価が得られていることから「地域との連携について」は、ほぼ充実したものになっていると考えられる。学習に外部講師を招いたり、読み聞かせボランティアをはじめ多くのボランティアに学校に入っていただいたりしている。また、学校ホームページ、新聞折り込み、回覧板文書、各種便りなどで、学校からの情報を発信していることが高い評価につながっていると考ええる。</p>
改善策	<p>学校からの発信は量としては少なくない。したがって学校の様子をタイムリーに理解していただいていると考えて良い。一方で、受信したものを学校運営に生かしていったり、共に学校を作っていくことについて、学校運営協議会の仕組み作りが今後進められていく中で、その動向を注視していきたい。</p>
<p>6「学校の特色に関して」</p>	
達成状況	<p>6項目全てで90%以上の肯定的評価が得られている。特に家読の取組を通して読書の重要性を家庭に伝えてきたこともあり、「学校は児童生徒が積極的に読書活動に取り組むよう指導に努めている。」は高い肯定率になっている。実際、児童一人あたりの図書貸出冊数は昨年度に比べ一段と高くなっている。</p>
改善策	<p>前期を終えた時点での集計なので、年間を通じて行われる本校の特色を評価することは難しいが、児童の読書量が増えたことについては職員の取組の成果と言える。学力の面からも情操の面からも継続して取り組んでいきたい。他については、学校の特色として職員や児童、保護者の捉えが共通したものになるよう、取り組んでいく意義などを発信していく必要がある。</p>
<p>Ⅲ まとめ</p> <p>1学期末には集団感染性胃腸炎の突然の発生があり、行事の組み替えなどを余儀なくされたものの、他の教育活動への影響は最小限にとどめることができた。その一つの理由として、統合3年目を迎え、一つ一つの教育活動が落ち着いて進められてきていることが挙げられる。これは、職員、児童、保護者のアンケート結果からも伺える。しかし、一人ひとりの児童に目を向けると課題は多く、組織としての取組の強化、個人としての資質能力の向上は不断に行われなければならない。引きつづいて本校の教育活動がより充実、安定したものになるよう、これを機会として、年度末に向けて確実な取組を積み上げていきたい。</p> <p>昨年度と同様の評価項目であるため、ある程度の比較はできるというメリットはあるものの、どのように改善していくかとなると、具体的な評価基準が必要である。また、統合して学校運営が定着してきたところで、評価項目を重点目標に特化していくなど、新たに項目を見直す時期にも入っている。今までの成果の上に、更に充実した学校運営を進め本校の伝統を築いていきたいと考える。</p>	